

梶山内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革） 記者会見要旨

日時：平成29年9月5日（火） 17:44 ～ 17:50

場所：首相官邸ロビー

（冒頭発言）

まず、区域計画に盛り込んだ12事業について、認定作業を行うことになりました。また、東京都と養父市から、新たな提案がありました。それから民間議員の方からは、スピードを緩めずに改革を進めていくべきということと、いくつか課題があげられました。規制のサンドボックス制度の早期実現、告示や通達などの総合的・横断的な見直し、そして、特区措置の「全国展開」の加速的推進ということでありました。さらには、これからの運営の透明性を一層高めるためのご提案が民間議員の皆さんからあったということでもあります。

（質疑応答）

問： 透明性の確保について具体的に安倍総理からはどのようなお話があったのでしょうか。

答： 民間議員の意見を参考にしっかり透明性を高めていきたいと思いますということでもあります。

さらにまた、特区の特性を考えると、スピーディーな対応も必要であり、その中で民間議員の方々からの提案を受けてどうしていくかということ、次回の諮問会議までにある程度の形をつけていきたいと思っています。

問： 透明性の向上という提案があったということですが、具体的にこうした方がいいとか

…

答： 民間議員の方々からは、特区の諮問会議を実質的な折衝の場として活用してはどうかとの提案がありました。今までは大臣間のやりとりが見えないことがあったが、規制側の大臣も諮問会議に出席することができるし、私も当然出席をしているということですから、今まで個別にやり取りしていたものを、しっかりこの場で議論してはどうかという提案がまず第一点。第二点は、省庁間の協議について、合意議事録、ミニッツを作ってはどうかということでした。第三点は、会議の議事公開ルールの明文化ということで、ワーキンググループは今まで八田座長に運用をお任せしておりましたけれども、運用もできるだけ明文化した方がいいだろうというお話がありました。

問： 今の提案を受けて、民間議員からの提案を受けて、次回の諮問会議までに制度化していくとか、そういう…

答： できるものなら、速やかに検討作業を行って、次の諮問会議にでも、しっかりと検討を踏まえた議論ができればと思いますし、ワーキンググループについても、明確なルールの下に運営ができればと思っています。

問： 確認なんですが、その提案を受けて、そういう方向性で大臣としてやっていくと。

答： いや、大きな方向性は示していただきましたので、具体的にどうしていくかという検討も必要だと思います。これまでは、大臣間の調整が見えにくいこともありましたから、省庁間、大臣間の調整については、例えば先ほど申しましたように、諮問会議で議論をしたらどうか、あるいは、ミニッツ、合意議事録を作成するという方法もあるでしょう。それらをどこまでやるかは、これから詰めていくということになろうかと思います。

問： 次回の諮問会議までにとということだったんですけど、だいたい、年内とか…

答： 諮問会議の開催時期は、分かりませんが、だいたい今までのペースで、通常のペースで開かれるということを考えながら、中身について、民間議員の皆さんと詰めていく必要があると思います。

問： 年度内とか、年内っていうのは、ちょっと分かんない…

答： 時期は、はっきりとは申し上げられませんが、年内に諮問会議を開催しないことは考えにくいですから、できれば次の諮問会議までに詰めていきたいという思いであります。

問： いわゆるその反省の基になった、これまでの過去の経緯については、何か意見とか議論があったんでしょうか。

答： いやいや、ここまでやってきた岩盤規制の改革、岩盤規制に突破口を開けていく改革は、日本経済にプラスになってきたわけでありまして、より多くの方にご理解をいただくために、さらに透明性を高めていく改善をしたらどうかという民間議員からの提案でありました。

(以 上)